

フーディーな僧侶たち

57



特集

お参りの記録共有サイト

ホトカミ

吉田 亮



なぜ私たちは参拝するのだろうか。境内のしんとした静けさ。手を合わせた時の安心感。きっと誰もが感じているはず。えも言われぬ何か、そこにはあるのだと。

学びと実践の両足で歩む仏教登山

国土の7割以上が山地の日本。標高3千メートルを超える山は20以上、2千メートルを超える山は600以上、千メートルを超える山は無数にある。そのなかで最高峰の山といえば、もちろん3776メートルの富士山だ。最近では、登山道や山小屋が整備され、便利な装備も手に入れやすく、いきなり登頂できる人も多い。もちろん体力的にはしんどいし、それなりの達成感もあるだろう。山頂からの景色も申し分なく綺麗だ。しかし、本来は山登りの経験を積み、山についてよく学んだ上で挑戦するべき山であり、登山の旨味を

半分も味わえないと感じるこの登山は「なんとなく登山」のような気がしてならない。

仏教理解への道のりも、山登りに例えられる。仏教の教えについて学ぶことで知識を蓄え、生活のなかで一つひとつ実践して経験を積む。学びと実践の両足が一步ずつ歩むように、実践から新たな学びの必要性が生まれ、学びは実践により深められることで仏教理解の実感が近づいてくる。だが最近では、本屋には先人による仏教理解の知識が並び、SNSには現在の仏教者の経験がリアルタイムに流れる。仏教が身近になった反面、

それらを見ているだけで、一気に山頂にたどり着いたかのような、学びと実践を身につけたかのような、「なんとなく仏教理解」に陥る危険性も高い。

登頂までの足跡が全く同じになることがないように、見聞きすることはあくまで他人の登山スタイル。道しるべになったとしても、自分自身で歩まなければ仏教理解の道のりは見えてこないのではないか。

さあ、一緒に山に登ろう！頼れる仲間が集うフリースタイルな僧侶たちというパーティーで。

フリースタイルな僧侶たち

よしだ・りょう
1990年滋賀県生まれ岐阜県育ち。神社寺院御用達の株式会社DO THE SAMURAI代表取締役。東京大学理科II類入学後、文学部日本文学卒業。2013年より日本文化や歴史を後世に繋ぐ事業を開始、2016年法人化。

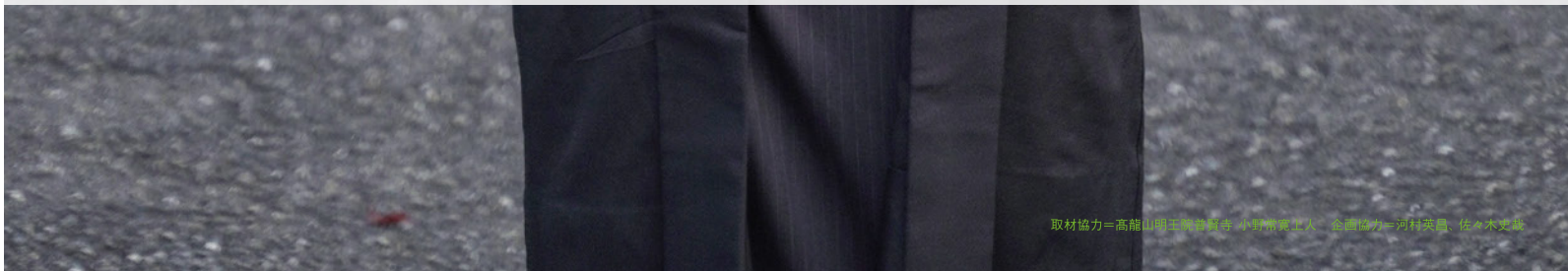


特集：100年後の神社お寺のために

『ホトカミ』吉田 亮

『無宗教です』と言われると、本当だろうかと思ってしまう。日本を見渡せば、多くの人が七五三やお正月など節目節目でお寺や神社に足を運んでいる。この記事の取材が行われた多磨にも大きな霊園があって、仏花を持ったご家族を幾組も見かけた。日本人って、実は信仰心が豊かなのじゃないだろうか。そんな日本人が古来より絶えず続けてきたのが「お参り」だ。今日も、御朱印ブームしかり、お寺や神社にお参りする人は絶えない。そんなお参り文化を拡張しているウェブサイトがあるのをご存知だろうか。名前は『ホトカミ』。仏さま・神さまが名前の由来であるホトカミは、月間120万人が寺社の情報を求めて利用し、ユーザーのお参りの記録は66,000件にも及ぶ。サービスの創設者は、株式会社DO THE SAMURAIの代表取締役、吉田亮さんだ。東京大学に入学し、20代前半までミュージシャンを夢見ていたという彼がなぜ、寺社と人々の縁を繋ぐサイトに思い至ったのだろうか。葛藤と決断を繰り返し、たどり着いた人生のテーマは神社とお寺。そんな数奇な彼の人生を紐解く。

稲田ズイキ＝取材・編集 鈴木雅矩＝文 蘆月真成＝写真



取材協力＝高麗山明王院・徳善寺、小野神社、金剛院、河村英貴、佐々木文彦

ミュージシャンを夢見て、
東大に入学

「祖父の家の隣が浄土真宗のお寺で、お盆や正月に里帰りするときは、毎回遊びに行きました」。滋賀県の彦根市に生まれ、岐阜県多治見市で育った吉田さんは、幼少期からお寺に親しんで育った。幼い頃から日本の歴史や文化に対する関心が高く、大河ドラマを毎年チェックして、小学校6年生の頃には前田利家のファンになったという。

歴史好きと同時並行で、心惹かれていたのは音楽の世界だった。7歳の頃には母親とS M A Pのライブを鑑賞。歌が好きで、「いつかこういう場所で歌いたい!」と夢見て、中学時代にバンド活動を始めた。

「ミュージシャンは僕の夢でした。30歳で武道館、40歳で地元のナゴヤドーム、という具合に未来図を描いて、絶対にミュージシャンになるんだと信じていました」。

吉田さんは高校卒業後、東京大学に進学。音楽をやるなら東京だと、進学先は前田家の屋敷跡にある東京大学に決

めたという。1年浪人はしたが、「利家も浪人していた時期があった」とポジティブに捉え、宅浪の末、翌年に合格が決まる。

大学に進学した吉田さんはバンド三昧。しかし、プロを目指してライブに精を出すも、なかなか芽が出なかった。危機感を覚えた吉田さんは、1年休学して音楽に専念しようと決断。「真剣に音楽活動をした結果、憧れのMr.Childrenさんが演奏したライブハウスのステージにも立ちました。でも、大きなライブの後、音楽に悩むようになってしまったんです」。

直面した壁は、「何のために歌うのか?」という問いだった。「自分は何を歌いたいのだろう。誰に歌いたいんだろう。武道館という夢だけに向かっていたけれど、迷うようになって音楽が作れなくなりました」。五里霧中の状態ながら休学費用は自分持ち。当時、70万円の借金を抱えていた。吉田さんはアルバイトに励みながら、自問自答の日々を送る。そんなときに出会ったのが吉田松陰の言葉だった。

直面した“なぜ?” 先人の言葉が 現代にサムライを蘇らせる

「本には『志とは、世のため人のため』と書かれていました。それまでは自分だけの夢しか見えていなかったのですが、誰かのためなんて1秒も考えたことがなかった。それから何をすれば人の役に立てるだろうと考え始めたんです」。

吉田さんが立ち戻ったのは幼い頃から好きな歴史や文化だった。読んだ本の内容を友達に話したとき、「知らなかった! もっと教えて」と肯定的な反応が返ってくる。幼少期からのそんな経験を思い

出し、文化や歴史を学んで伝えることに意義を見出した。

着想したのが、音楽と歴史との掛け算だった。日本の歴史や文化を盛り込んだ歌を作り、曲間のMCで歴史を紹介し始める。活動のテーマは1番好きな「サムライ」に決める。MCが好評だったことから、神社ツアーや講演活動の依頼が殺到。活動は中高年の参加者から好評で、オリジナル曲はカラオケにも登録されるようになったという。

ミュージシャンからプロのサムライへ、迷いながら進んだ数年間

東大生、ミュージシャン、そしてサムライ。波瀾万丈な彼の人生であるが、さらにこれ以降、妙味を帯びていくことになる。歴史文化を伝える「プロのサムライ」と呼ばれるようになった吉田さん。しかし事態は急転。当時、多忙を極めていた吉田さんは、体調を崩してしまうのだ。

診断されたのは自律神経失調症。1か月に編曲の仕事や10曲こなし、並行して作曲やツアー、講演会、ライブも行

現代風の盆踊り“盆ダンス”で感謝の気持ちを歌った吉田さんの楽曲『かたじけなっしんぐ!』。武士がフロアを沸かす。

う毎日。とうとう声も出なくなっていました。それでも薬は飲まないというこだわりを貫き、治療のために始めたのが散歩だったという。駅までの往復15分から始まり、近くのお寺や神社、次第に遠くの寺社にも足を伸ばすようになった。この経験が、吉田さんが運営する『ホトカミ』の原型になっているという。

「散歩を続けると、少しずつ体調は良くなっていきました。でも目的地を決めるのに苦労して。小さな寺社って、検索してもなかなか出てこないんです。現在地から近い神社やお寺を探す方法はないだろうかと当時から思っていました」。

ここで、ある方との数奇なご縁があった。俳優の伊勢谷友介さんとの出会いだ。吉田松陰のNHK大河ドラマが放送されていた頃、吉田さんは松陰神社ツアーをお願いされ、松陰を演じていた伊勢谷さんともお話する機会ができたという。「その時、伊勢谷さんから『ただ歴史や文化を面白く伝えるだけならバカでもできる。なんのために自分の命を使うのか考えた?』と問われたんです。僕は何も答

えられない自分にシヨックを受けて、何のための日本文化、歴史なのか、また自問自答を始めました」。

悩みの中、吉田さんが紐解いたのは先人の知恵だ。古今東西、数多の本を手に取り「今を生きる人は、先人が志し、果たせなかったことを引き継いでいくべきだ」という『論語』の言葉と出会い、偉大な先人たちの臨終の言葉に興味を持ったという。

「誰もが死に際に共通して考えていたのは、家族や友人と もっと仲良くすればよかったといった想いでした。僕はそこから、生きる意味とは世界平和なんじゃないかと考えた。でも、同時にそれは人間中心主義的です。はたして、人間同士の仲が良いだけでいいんだろうか。そんな時に『草木国土悉皆成仏（心のあらゆるものでなく、心のない草木まで、全てが成仏する）』という仏教の言葉に出会い、その言葉がすごく腑に落ちたのを覚えています」。

RAI」を設立する。個人事業として続けていたツアーや講演に対する自負や愛着はあったが、「このままでは後世に残る事業はできない」と思い切って全ての仕事を断り、事業計画を練り始める。

「寺社という文化を後世に残す」ホトカミの誕生

事業計画として吉田さんが書き連ねたのは、300個の事業アイデアだった。しかし、なかなか一つに絞りがることができない。しかも追い打ちをかけるように子供の頃からファンだったSMA Pが解散を発表。深い悩みの中、またしても救いの手が差し伸べられた。「お寺に遊びにおいで」と友人の福井県のお寺から誘いが来たのだ。気持ちをお寺で替えたかった吉田さんはお寺で何もしない一泊二日を過ごし、SMA P解散の傷を癒す。自分と向き合った末、帰路の新幹線の中で事業アイデアが決まったという。



お寺の掲示板。法語や住職の格言など、寺院ごとに多様な言葉が掲示され、今やお参りの醍醐味の一つになった。

くなかで違和感を覚えた。「五つ星を付けている途中に、待てよと。自分はお寺で大切な経験をさせてもらったのに、なんでお寺を飲食店や観光地と同じように、評価しなければいけないのか。評価じゃなくて、もっと想いを残したいと思った。そのとき、300個の事業アイデアの一つを思い出したんです」。

それがホトカミの原型となる「寺ログ」だった。全国のお寺神社を検索できるようにデータベース化し、自分がお参りした場所をウェブ上に記録できるサイトだ。吉田さんの頭に様々な考えが浮かんで消えた。これまでの経験から、一般の人が神社仏閣の情報求めていることは分かる。さらに、お寺や神社の多

くは若い人が来なくて将来が不安だ。新しいことを始めるには、しがらみがあって動きづらいことも知っていた。「これは自分がやるしかない、自分にしかできない」と確信した吉田さんは実現に向けて動き出す。

「神社ツアーをやっていた時から考えていたんです。僕が文化や歴史を伝えるよりも、直接神社やお寺に行ってもらった方が感じるものは多いって。現地に行けば僕より由来に詳しいご住職や神主さんがいらつしやるし、お寺や神社は千年以上前から変わらず人々がお参りする場所です。だから僕は、寺社と人々をつなげて、寺社という文化を後世に残そうと決心したんです。早速準備を進めて、2017年の4月に『ホトカミ』をリリースしました」。

数万件の投稿と向き合ったから見えてきた、お参りの理由

リリースから約3年、『ホトカミ』は順調に成長していった。月間の利用者数は120万人、投稿されたお参りの記録は6万6000件。

画像は33万枚がアップロードされた。利用者は25〜44歳の若年層が多く、女性利用者が6割を占める。たった3年でなぜこれだけの成長を遂げることができたのだろうか。

「働き盛りの世代に徹底的に向き合ったからだと思います。ホトカミは未来のお寺や神社を支える人たちが使ってくれるサービスに育てる必要があった。だからデザインや言葉遣いは徹底的に考え抜いているんです。例えば、投稿に対する『いいね』は『すてき』へと統一しました。いいねの裏には必ず『悪いね』が生まれてしまうから、すてきと思えたらそれでいいコミュニケーションにしたかった。ウェブサービスとさえいって、使っているのは人間です。とにかく心と心のやり取りができる場所を目指しました」。

吉田さんの心遣いを色濃く伝えるエピソードがある。サービス開始以来、吉田さんは2000名のユーザーとメールのやり取りをしてきたそう。きめ細かくお礼を伝え、ホトカミを利用する理由を聞き、ときにはお正月のご挨拶をすることもあった。そのやり取りに込められた想い



『ホトカミ』のサイト画面。
https://hotokami.jp/

を逐一反映し続けた結果、たくさんの人が使いたくなるサービスになったのだろう。運営を続ける中で、新しい発見もあった。「面白かったのは投稿された画像の傾向で僕も手動で計1万8000枚くらいを分類したところ、写真の傾向が似ていました。道を曲がり鳥居が見えたとき、少しだけ咲き残っている花を見つけたとき、つまり、シャッターを切るのは心が動いた瞬間なんですよ。人間の心は

昔から変わらないと思うんです。それこそ和歌にも情景は詠み込まれているじゃないですか」。10代20代の若者が寺院を訪れたとき「エモい」という感想を残すことがあると聞く。日本人が昔から感じてきた言葉にならない趣、つまり「をかし」な情景を、現代の若者も感じているのかもしれない。

また、参拝者の動向でも発見があった。ホトカミのユーザーは投稿するほど寺社に対する感性が鋭くなっていくという。「僕もホトカミに投稿するんですけど、初めの頃はあまり書けることはありませんでした。だから、次は由来を知ろう、建物の詳細を見てもよ々と考えるんです。ホトカミに投稿しようと、少しずつ興味を持ち、知識がくくとどんどんハマっていく。いまは御朱印がブームですけど、続けていくうちに御本尊や印の違いに気づくじゃないですか。ここは阿弥陀如来だけど、こっちは薬師如来だぞ、そういえば宗派も違うな、とか。ホトカミがきっかけでどんどん寺社に興味を持ち、好きになってもええたら嬉しいです」。

時代に必要なのは「推し寺社」ではないか

最近では、ホトカミをきっかけに参拝者が増えるケースも日本全国で現れている。とあるお寺では除夜の鐘をホトカミで告知したところ、前年に比べ3倍となる90名の参加者を集めたという。ホトカミ上で寺社同士の知見の共有が進み、他所の成功ケースを取り入れる寺社も増えている。

運営したからこそ見えてきた課題もある。「初めてのお参って参拝のハードルが高いじゃないですか。檀家じゃないと入っちゃいけないのかなとか。でも、そういうお寺のなかには人が来なくて困っていて、参拝者に足を運んで欲しいところもあるかもしれない。だからホトカミでは『檀家・氏子以外の参拝歓迎』と明記できるようにしています。お寺側から歓迎する姿勢を示せば、参拝者が縁を結ぶことができます。ユーザーさんには、気軽ににお参りできる『お気に入りの寺社』と出会ってもらいたいんです」。

このインタビューが行われた多磨の普賢寺も、吉田さんのお気に入りのお寺の一つ。平成のお参り納めでも足を運

び、副住職である小野常寛さんと交流を深めている。そして、心を寄せる場が少ない現代にこそ『お気に入りの寺社』が求められているのでは、と吉田さんは話す。

「占いの市場規模は1兆円以上。それだけ悩みを抱え、孤独を感じて、救いを求めている人が多いんです。大都市では地域との関係性も希薄ですし、身を寄せる場所も少ない。でも、お寺はたくさんあります。たとえば、『檀家・氏子以外の参拝歓迎』の寺社が全国で1000件ホトカミに登録されれば、各都道府県に10件ずつお参りしやすい寺社ができる。2020年中には1000件の登録を実現し、誰でもお気に入りの寺社と出会えるようにしたいです」。

実際に繋がりができると、お寺の運営にもプラスの影響が出るという。とあるお寺ではヨガ教室や写経会の参加者が増えた結果、お寺の関係人口が増え、永代供養を申し込む人が5倍に増えたそうだ。

最後に、今後の展望について聞いてみた。「ホトカミでは、ネット上の岩波文庫。を合言葉に記事も執筆していて、仁和寺の瀬川大秀門跡様、出雲の錦田剛志宮司様など様々な方にインタビューを

行ってきました。その中で伝統に対する考え方で驚くほど共通していたのが、皆さん『大切なものは変えずに守りながらも、伝え方は時代に合わせて工夫していくべきだ』とおっしゃるんですね。僕らはホトカミを通じて、寺社が大切なものを守りながら、時代に合わせて表現方法を工夫していけるように、あくまでサポーターとして応援していきたい。檀家制度と共存するカタチで、持続可能な寺院の新しい収益源もつくってきたい。最近では、横浜市などの自治体や鉄道会社さんとお仕事をさせていただく機会も増えました。観光を通して新しい巡礼の形がつくれたら、今まで、点、だったお参りを、地域全体の、面、に広げることできます。今後も、インターネットを通じて人々と神社寺院のご縁を繋ぎ続けていきたいです」。

吉田さんの29年の歩みは葛藤と決断の連続だった。壁にぶつかるたびに先人や隣人の言葉をたずね、人のため後世のためにと志を磨いてきた。そして今、千年もの間、培われてきたお参り文化のバトンを受け継ぎ、寺社と参拝者のご縁を百年先まで紡ごうとしている。

吉田さんが「ルーツ」と語る普賢寺の小野常寛さんと。節目に必ずお参りし、世間話から仏教談義まで、気兼ねなくお話しする仲。



ている。

価値観が刷新されていく令和の時代。これまでの道を「伝統」の一言で片付けることは容易い。しかし、忘れてはいけなのが、その本質はいつの時代も絶えざる想いの連鎖であることだ。さあ、ついに2020年が来た。今ある寺社の文化は今を生きる私たちの志で紡いでいこう。

大切なものは守りながら
伝え方は時代に合わせて

『ホトカミ』でアカウントを作成してみませんか？

ホトカミには、月間120万人の神社寺院ファンが集まり、行きたい神社お寺を保存したり、御朱印やお参りの思い出を共有しています。

また神社お寺の方は、無料公式アカウントを作成することで、ホームページの代わりを10分程度で簡単に作成し、ユーザーにお知らせを発信できます。

●一般の方

https://hotokami.jp/users/sign_up/



●お寺・神社の方

https://hotokami.jp/users/new_official/



株式会社DO THE SAMURAI

東京都渋谷区恵比寿4-20-3
恵比寿ガーデンプレイスタワー27階

お問い合わせ
omotenashi@hotokami.jp



文／竹林真悟

北海道生まれ。浄土真宗本願寺派僧侶。満誓寺副住職。これまで100カ寺以上に参拝。ガンダムも好きですが、スターウォーズも好きです。

お寺でよく見かけるけれど なんだろ“アレ” Vol.10

見たことあるある、でも、よくよく考えてみれば「なに?」「なぜ?」であふれているお寺。そんな「?」を、お坊さんならではの視点でご紹介!

May the Voice be with you.

「あたし、今まで主役になることが一度もなかった。今や自分の役割を果たすことはほとんどないの。お参りの人はみんな通り過ぎて、立ち止まる人は皆無。どうせ、あなたも立ち止まらないんでしょ」境内を歩いていると、そんな声が聴こえてくるように、感じることはありません? その声に反応したのは、世の中の役に立っていないと思ひ込み、知らぬ間に普段気付くことなく心の奥底に沈殿しているものが被ったからかもしれない。

救いにすがった人たちが手を合わせた仏像は美術品扱いされ、境内は観光資源の公園として認識され、お寺に参りする人の目的はもはや御朱印だけになりつつある。境内の中には本来の役割を果たすこともなく、ひっそり佇んでいるものもある。

「地震で倒れても大丈夫なようにって、壊れにくくて、しかも燃えないようにって、石でつくってくれたみたいだけれど、おかげで錆物みたいになり手の込んだ模様もなくて。あたし、とっても地味でしょ」僧侶も同じだなんて思った。黒い衣に目立つ頭。トータルめっちゃ地味。歩きやすい靴

「でもね、あたし、ここに千年くらい立ってる。ご本尊さまやお堂より古いんだから」しみじみ眺めたら、竿と呼ばれる柱の部分や、傘と言われる屋根の部分に、千年の雨風が一緒にくっついてた。

「今は油を寄進してくれたら、あたしに本来の役を果たさせてくれる人がいないから、お堂に括り付けられた照明に取って代われちゃったけれど」。遠い昔、救いを求める参拝者を照らし続けたと



© Hiroaki Mitsuzawa

いう誇りと嬉しさが伝わってきた。

「石灯籠さん、そんなひたむきなあなたが好きです。仏さまや諸建物と同じくらい、あなたが素晴らしいって思います」。

そう思ったら、「なによ。今更」って言ったがり、恥ずかしそうに背を向けた。

「貧女の一灯」という仏教説話がある。お釈迦さまが日暮れ後に到着されると聞いた村人たちが。お釈迦さまの足元を照らせるようにと、灯火を並べるようになった。お釈迦さまを照らすことのできる尊さに心打たれた村一番の貧しい老女。全財産を投げ打って、やっと手に入れた少しの油で



文／林中えみり

母親に「お通じが良くなるから」と、烏枢沙摩明王の真言を叩き込まれた過去があり、今でも語(そら)んじて言えてしまう。ドラゴンボールの話をしたら自動的にテンションが上がる。好きなキャラはバーダック。

オー……ッスウ! オラ林中!

というわけでテンション高めな今回はなんと! 最終回です! 余すことなくお送りしてまいります!★

最終回の今回はフリスタオフィスを飛び出して、大阪は藤井寺駅前に位置する「西国五番札所・葛井寺」さんにお邪魔してきました。葛井寺は真言宗御室派の寺院で、とても迫力のある千手観音さまがいっしょなお寺です!



葛井寺の森崇協副住職とお手洗い前で。うすさまバッグ、置いてくださるみたい!

お寺に伺った、その理由は……。遡ること3年前の12月。本企画の発起人・フェリシモおてらぶの内村氏が、葛井寺さんの縁日のお手伝いをしていたときのことでした。

フリスタのボランティアK氏(現フリスタグッズ部メンバー)が縁日に参加していたので内村氏にご挨拶していたところ、「女性が欲しい仏教グッズって、何かあったりしますか?」と質問を受けたので

そこから「では何か一緒に作ってみましょう!」となり、フリスタグッズ部が発足したのでした……!

それだけの理由で葛井寺さんには? いいえそれだけではありません!

葛井寺さんのお手洗いには「烏枢沙摩明王」がいっしょやるのです。出どころは不明とのことなんです、烏枢沙摩明王が描かれた額が、お手洗いに飾られています。これはもう運命……。いえ、ご縁としか言いようがありません。なかなかの存在感なので、是非一度足を運んでみてください!★カフェも併設されているのでくつろげてオススメです♡

というわけで!「フェリシモおてらぶ×フリスタ」のコラボグッズ完成度は今回で100%となりました〜! イエー!

今回の結論

うすさまバッグ
ついに完成!

完成までの進捗状況

100%

●商品の詳細・購入は、
フェリシモ公式サイトまで



最後に、その場しのぎの仏教コンテンツや金銭目的では

グッズレポートはひとまず今回で終了しますが、グッズ製作は今後も続けていく予定です!

最後に、その場しのぎの仏教コンテンツや金銭目的では

お寺の明かりを考える プロジェクト Vol.2

現代の技術を用いることで、「仏法が、より伝わる」ライティングを模索したい——
そんな想いを胸に、「お寺の明かり」の可能性を探っていくプロジェクトです。

参加者募集！

本プロジェクトへの参加を希望する僧侶の方は、フリースタイルな僧侶たちまでお問い合わせください。
info@freemonk.net



「お寺の明かりを考えるプロジェクト」第二回は、実際に本堂を照らす照明実験を実施した。会場となるお寺は大阪ミナミに位置する真言宗寺院三津寺。御本尊十一面観世音菩薩を中心に九昧の仏像が安置されている。照明器具の提供は、照明機器メーカー「DNライティング株式会社」、演出は照明デザイナーの吉野弘恵氏だ。

「照明を当てて仏像を明るく照らすのではなく、仏像自身が自然と光を放っているかのように感じるライティングを心がけています」と語る吉野氏。なるほど。ただ強い光を当てて見えやすくするのはなく、仏像に命を吹き込むかのようなライティング。本堂にお祀りされる仏さまを照らす一つの正解例を見た。

「お寺の明かりを考えるプロジェクト」では、今後本堂だけでなく境内や磨崖仏など、寺院を魅せる照明づくりを多面的に実験していきます。

続報も、どうぞお楽しみに！

プロジェクト協力

納まる

Osamamaru

Tokokomaru

DNライティング株式会社

www.dnlighting.co.jp

03-3492-4323 E-mail: info@dnlighting.co.jp

1946年創業、プロ用照明器具を開発製造する専門メーカー。細やかな顧客要望を実現する開発力、秋田の自社工場生産による高い品質、サイズや色のバリエーションの多さの3点に拘り建築物や商業空間を魅せる光づくりに貢献。主力商品はスリムでシームレスなLEDライン照明器具。ファサードや外構に美しい陰影を生み出す屋外照明の事例も多数。

代表事例：シェルネルなんば、京都国立博物館 平成知新館、JR立川駅通路ファサード。受注品対応も可能。

After

Before

EVENT info.

これから開催される フリスタ主催イベント

分かち合いで生まれる 豊かな時間

「アラサー僧侶とゆるーく話す会」

4月25日(土) 14:30～17:00
京都・明覚寺

アラサーのお坊さん数名とゆるーくお話をする会です。話のテーマは、あなたの話したいこと。普段の生活の中でモヤモヤしていることや、とにかく誰かに聞いてほしいことなど、何でも構いません。単純にお坊さんと話してみたいという方、お坊さんの生態や仏教に興味のある方、ただただまったりと時間を過ごしたい方も歓迎です。お茶とお菓子をいただきながらお坊さんと一緒に考えてみませんか。お気軽にお立ち寄りください。

参加費：1,000円(フリスタサポーター800円)
定員：12名
住所：京都市下京区平野町783

※終了後、懇親会を予定しております。
(申) <http://www.freemonk.net/events>
(問) info@freemonk.net

みんなで学ぶ お経のことば

「『はんにゃしんぎょう』を咀嚼する会 #5」

4月29日(水・祝) 16:00～18:30
京都・明覚寺
5月5日(火・祝) 16:00～18:30
大阪・三津寺墓地 松林庵・管理棟2F

参加費：1,000円(フリスタサポーター800円)
※現地にてお支払いください
定員：20名
住所：4月29日＝京都府京都市下京区平野町783
5月5日＝大阪府大阪市中央区千日前2-9-23
担当：若林唯人(浄土真宗本願寺派僧侶)
テキスト：『般若心経・金剛般若経』(岩波文庫)

※筆記用具をご持参ください。
※こちらでレジュメを準備してお配りいたしますが、予習されたい方はテキストをお買い求めください。
※両日とも内容は同じです。
※終了後、懇親会を予定しております。

(申) <http://www.freemonk.net/events>
(問) info@freemonk.net

『般若心経』の一つひとつの言葉を丁寧に、噛み砕いて味わう勉強会。浄土真宗の僧侶・若林唯人が担当します。浄土真宗では『般若心経』を唱えないこともあり、このお経をたずねるのは私もこれが初めての縁。ご参加いただいた方たちと一緒に、仏教のエッセンスを学べたらと思っています。初めて仏教を学んでみようかなと思われた方はもちろん、写経や読経で馴染みのある方も僧侶の方も、どなたもお気軽にお越しください。

13



ご支援のお願い

フリースタイルな僧侶たちの活動を
応援してくださるサポーターを募集しています。

スクーターで通り過ぎる姿か、お葬式やご法事。僧侶を見かける
機会はそれぐらいで、有名なお寺以外はなんだか入りにくい。僧侶
としてこの現況を申し訳ないと思うし、もったいないとも思います。

なぜ苦しみは起こるのか。自分も他人も仕合せになるために、い
かに生きればよいのか。2500年にわたり伝わってきた仏教のポテン
シャルは確かで、今を生きる支えになると私たちは信じています。

固定観念にとらわれず、フリースタイルにフリーマガジン・ウェ
ブ・イベントを通して、軽やかに仏教と出会えるように、安らぎや気
づきが得られるように、持てる力を尽くしてまいります。

私たちの取り組みに共感し、応援してくださるサポーターを募集
しています。仏教を身近に、日常に。そして、あなたの生きる力に。
仏教が生きる安らかな社会をご一緒につくっていきましょう。

協賛法人サポーターリスト

浄土宗▶安楽寺(南丹市)／延命寺(堺市堺区)／吉祥寺(萩市)／慶蔵院(伊勢市)／金剛寺(京都市東山区)／西明寺(尼崎市)／西楽寺(京都市伏見区)／西林寺(大阪府泉南郡)／正覚寺(青森市)／正善寺(伊丹市)／勝楽寺(町田市)／真光寺(今治市)／新善光寺(札幌市中央区)／崇福寺(甲賀市)／善願寺(甲賀市)／善道寺(札幌市豊平区)／臺鏡寺(枚方市)／檀王法林寺(京都市左京区)／潮音寺(東京都大島町)／長壽院(台東区)／梅窓院(港区)／法岸寺(静岡市清水区)／寶松院(港区)／法善寺(大阪市中央区)／妙慶院(広島市中区)／無量光寺(鳥取市)／湯川寺(函館市)／龍岸寺(京都市下京区)

浄土宗西山禪林寺派▶宝泉寺(津島市)

浄土真宗本願寺派▶光栄寺(井原市)／幸教寺(大阪市生野区)／光照寺(大阪市東淀川区)／西教寺(生駒市)／西方寺(大和郡山市)／西法寺(北九州市)／浄元寺(尼崎市)／正源寺(大津市)／正宣寺(大阪市北区)／浄満寺(大阪市西成区)／信覚寺(福岡県朝倉郡)／崇興寺(福山市)／養法寺(金沢市)

真宗大谷派▶覚法寺(福岡県八女郡)／称讃寺(新潟県長岡市)／正蓮寺(伊豆の国市)／宝皇寺(函館市)

浄土真宗東本願寺派▶緑泉寺(台東区)

天台宗▶圓融寺(目黒区)／正明寺(姫路市)／本覺寺(横浜市鶴見区)

高野山真言宗▶弘法寺(和泉市)／薬師院(岸和田市)

サポーター特典

- 弊誌を毎月お送りいたします(年間4回)。
- 主催イベントにおいて、優待いたします。
- 法人サポーターの方は、誌面にお名前を掲載いたします。

ご支援くださる方は、下記サイトのフォームにご記入・お申し込みください。
担当者より、振込先などについて折り返しご連絡を差し上げます。
<http://www.freemonk.net/contact/support>

会費振込先

三井住友銀行／園田支店(422)／普通／5092943
フリースタイルな僧侶たち／代表 加賀俊裕

協賛年会費	個人＝5,000円 法人＝30,000円
-------	----------------------

お振り込みの際、あらかじめ下記のいずれかにご連絡くださいませ。

Tel. 050-5583-4330 E-mail. info@freemonk.net

真言宗豊山派▶寶積寺(松山市)

真言宗御室派▶三津寺(大阪市中央区)

真言宗須磨寺派▶須磨寺(神戸市須磨区)

臨済宗妙心寺派▶円光寺(台東区)／亘雲寺(江東区)／勝林寺(豊島区)／陽岳寺(江東区)／龍雲寺(世田谷区)

臨済宗建長寺派▶東光禅寺(横浜市金沢区)

曹洞宗▶四天王寺(津市)／瑞生寺(浜松市中区)／南詢寺(守口市)／鳳仙寺(宮城県亘理郡)

日蓮宗▶池上實相寺(太田区)／法華寺(亀岡市)／妙海寺(勝浦市)／妙見寺(橋本市)

単立▶五百羅漢寺(目黒区)／瑞聖寺(港区)／法然院(京都市左京区)

企業・団体・店舗▶アンカレッジ(港区)／カウ
ントワン(京都市中京区)／京美仏像(京都市北
区)／京念珠ゼニヤ(京都市下京区)／薫寿堂
(神戸市)／神戸数珠店(京都市下京区)／作島
(京都市下京区)／茶坊えにし(台東区)／寺院
コム(京都市左京区)／翠光堂阪急淡路駅前店
(大阪市東淀川区)／大正大学(豊島区)／学校
法人鎮西学園(熊本市中央区)／豊田愛山堂(京
都市東山区)／一般社団法人日本石材産業協
会(千代田区)／はせがわ(文京区)／浜屋(姫路
市)／福生(堺市西区)／Flucte(大阪府都島区)
／坊主BAR 緑(岐阜市)／見守り奉仕(神戸市
中央区)

*敬称略・五十音順

フリースタイルな僧侶たち Vol.57

2020年4月1日発行
発行人 加賀俊裕

発行所 フリースタイルな僧侶たち
〒542-0085
大阪府大阪市中央区心斎橋筋2-7-12
☎050-5583-4330

編集
若林唯人・光澤裕顕・飯村絵理子

デザイン
梅本龍青・福井裕孝

企画協力
竹林真悟・飯野顯志・福山智昭・久松彰彦
稲田瑞規・河村英昌・財津宏經

www.freemonk.net



日めくりカレンダー
『スター坊主めくり』
抽選で10名の方に
プレゼント！

公式サイト

<https://starbouz.net/> 内

お問合せフォームに



フリースタイルな僧侶たち と

記入のうえ送信ください。

当選者様には5月以降にご連絡を
差し上げます。

受付期間：2020年2月1日～4月30日

お問合せ先

株式会社便利堂 商品センター（平日10:00～17:00）
goods@benrido.co.jp



心といのちの電話相談室

☎ 03-3436-6823

相談受付 毎週月曜日・金曜日 10:00～16:00（祝日、盆、年末年始は休業いたします）

あなたを支えたいと
願う人がいます。
つらいお気持ち
おはなしてください。

「心といのちの電話相談室」の特徴

- 研修を受けたお坊さん、
お寺の奥さんがお話を伺います
- 多彩なご相談に対応します
- 周囲の方もご相談ください

「心といのちの電話相談室」の約束

- 秘密は必ず守ります
- 勧誘はしません
- 無料でお受けします

「心といのちの電話相談室」事務局

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 公益財団法人 浄土宗ともいき財団 内
TEL.03-3436-3353 FAX.03-5472-4878 ホームページ <http://tomoiki.jp/>

詳しくは

心といのちの電話相談室 検索